

2021年9月期 第3四半期 決算説明資料

2021年 8月

フィンテック グローバル株式会社

(東証第二部 : 8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

目次

総括	2
連結業績概況	3
四半期連結業績推移	4
セグメント別業績	5
投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益	7
エンタテインメント・サービス事業ー業績等	8
投融資残高の推移（FGI,FGT合計）	10
受託資産残高の推移	11
連結貸借対照表、連結損益計算書	12
連結経営指標等の推移	14
会社概要	15

投資銀行事業の好調により、増収。

営業利益、経常利益、四半期純利益がそれぞれ黒字化。

- ・プライベートエクイティ投資（PE投資）が業績牽引。航空機アセットマネジメント（航空機AM）も伸びる。

エンタテインメント・サービス事業は、ライセンス関連が増収となるも、メッツァはコロナ禍により来園者数の低調が続き、減収。セグメント損失を計上。

- ・メッツァは、来園者数がQ1にイベントなどで集客し回復傾向にあったが、Q2以降は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言等により、低調となり減収。コスト削減による収支均衡策により、セグメント損失は前Q3累計比で縮小。
- ・ライセンス関連は、ブランディングが「巣ごもり」需要の取り込みにつながり、増収。

2021年9月期の連結業績予想は、現時点で変更なし。

- ・利益率が高い投資銀行事業が好調であるが、メッツァ関連の業績進捗が遅れる。
このため、連結業績予想に対する進捗は、各段階利益は順調であるものの、売上高が若干遅れる。
- ・投資銀行事業では、期末にむけて更なる案件組成に取り組んでおり、航空機AMは好調を維持する見込み。
- ・メッツァについては、7月以降、新型コロナウイルス感染症の感染が急拡大したことにより、埼玉県が8月2日から31日まで緊急事態宣言の対象となっており、来園者数は低水準で推移する可能性がある。
- ・投資銀行事業の案件組成やメッツァの来園者数等の動向を踏まえ、修正が必要と判断した場合は、速やかに開示します。

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

連結業績概況

(単位：百万円)

	2020年9月期 第3四半期累計	2021年9月期 第3四半期累計	増減額	増減率	通期業績予想 2020/11発表	業績予想 進捗率
売上高	5,196	6,410	1,214	23.4%	9,000	71.2%
売上総利益	1,670	2,846	1,176	70.4%	—	—
営業利益	△893	465	1,358	—	540	86.1%
経常利益	△989	437	1,426	—	370	118.2%
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	△1,045	319	1,365	—	250	127.9%
償却前営業利益	△337	954	1,291	—	—	—

・ 償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

売上高

メツアが減収となるも、投資銀行事業は好調に推移して増収。

- 投資銀行事業は、PE投資案件の組成により、業績は大きく進捗。
航空機AMも好調に推移したことで、増収。＜外部売上高1,391百万円増（79.3%増）＞
- エンタテインメント・サービス事業は、ライセンス関連が増収となるが、
メツア来園者数が低水準で推移したことにより、減収。＜外部売上高167百万円減（5.1%減）＞

売上総利益

原価率の低い投資銀行事業の業務受託等の売上伸長により、粗利は大幅増加。

営業利益

売上総利益の増加と販管費の減少により前年同期比1,358百万円改善。黒字転換。

- 販管費は人件費、諸経費を削減し、前Q3累計比182百万円減（7.1%減）の2,381百万円。
- メツアは、コスト削減した運営体制を維持。
- 前年同期にムーミンバレーパークに係る臨時休園中の固定費等292百万円を特別損失に計上したが、これを営業費用に計上した場合と比較すると、前年同期比1,651百万円の改善。

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

四半期連結業績推移

(単位：百万円)

	2020年9月期						2021年9月期				前Q3比 増減額 (増減率)	前Q3累計比 増減額 (増減率)
	Q1	Q2	Q3	Q3累計	Q4	Q4累計	Q1	Q2	Q3	Q3累計		
売上高	2,209	2,060	926	5,196	1,644	6,841	2,020	2,854	1,536	6,410	609 (65.7%)	1,214 (23.4%)
売上総利益	696	604	368	1,670	643	2,313	825	1,558	462	2,846	93 (25.3%)	1,176 (70.4%)
営業利益	△258	△236	△398	△893	△99	△992	53	787	△375	465	23 (－)	1,358 (－)
経常利益	△297	△263	△428	△989	△146	△1,135	9	821	△393	437	34 (－)	1,426 (－)
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	△284	△296	△464	△1,045	△140	△1,186	△63	681	△298	319	165 (－)	1,365 (－)
償却前営業利益	△5	△23	△307	△337	73	△264	224	962	△232	954	75 (－)	1,291 (－)

・ 償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

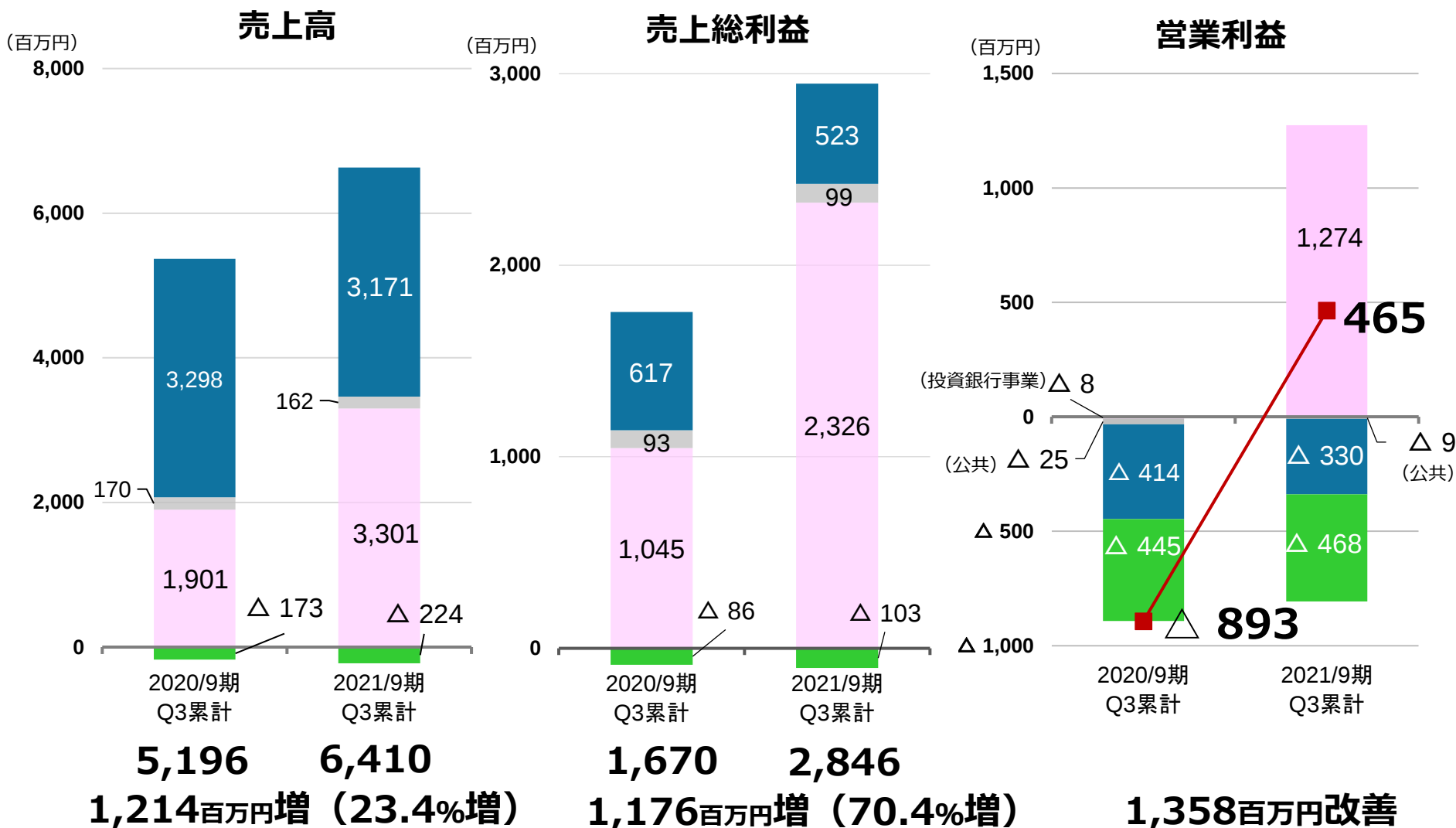
セグメント別業績 - 1

- ・投資銀行事業の売上高・売上総利益の増加が、連結業績を牽引。
 - ・エンタテインメント・サービス事業は、Q1はメッツアの回復、ライセンス関連の伸長により、黒字化するも、Q2,Q3は緊急事態宣言等によるメッツア来園者数減少により、セグメント損失を計上。
- (単位：百万円)

報告セグメント	科目	2020年9月期						2021年9月期				前Q3比	前Q3 累計比
		Q1	Q2	Q3	Q3累計	Q4	Q4累計	Q1	Q2	Q3	Q3累計		
投資銀行事業	売上高	555	849	497	1,901	623	2,525	812	✓ 1,856	632	✓ 3,301	134	✓ 1,399
	売上総利益	316	403	325	1,045	437	1,482	499	✓ 1,492	335	✓ 2,326	9	✓ 1,281
	セグメント利益	△71	36	26	△8	118	109	142	✓ 1,180	△47	✓ 1,274	△74	✓ 1,283
公共コンサルティング事業	売上高	64	62	43	170	83	253	62	56	43	162	0	△7
	売上総利益	33	34	25	93	57	151	38	31	29	99	3	5
	セグメント利益	△7	△5	△12	△25	10	△15	△2	0	△6	△9	6	16
エンタテインメント・サービス事業	売上高	1,647	1,202	448	3,298	1,006	4,304	✓ 1,223	1,007	✓ 939	✓ 3,171	✓ 491	✓ △127
	売上総利益	376	190	50	617	180	797	327	64	132	523	81	△93
	セグメント利益	△18	△142	△253	△414	△101	△515	✓ 47	△203	✓ △175	✓ △330	✓ 77	✓ 83
調整額 (セグメント間取引消去 又は全社費用)	売上高	△57	△54	△62	△173	△68	△242	△78	△66	△79	△224	△17	△50
	売上総利益	△29	△24	△32	△86	△32	△118	△39	△30	△34	△103	△1	△17
	セグメント利益	△161	△124	△158	△445	△126	△571	△134	△188	△145	△468	13	△23
連結P L計上額	売上高	2,209	2,060	926	5,196	1,644	6,841	2,020	2,854	1,536	6,410	609	1,214
	売上総利益	696	604	368	1,670	643	2,313	825	1,558	462	2,846	93	1,176
	セグメント利益	△258	△236	△398	△893	△99	△992	53	787	△375	465	23	1,358
関連事項			ムーミンバレーパーク 16日間 臨時休園	ムーミンバレーパーク 64日間、 メッツア ビレッジ 44日間 臨時休園					緊急事態 宣言 (1都3県 は1/8－ 3/21)	緊急事態 宣言 (東京都は 4/25－ 6/20)			

- ・各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高です。
- ・調整額(セグメント利益)(2021年9月期Q3累計は△468百万円)には、セグメント間取引消去(2021年9月期Q3累計は165百万円)及び報告セグメントに配分していない全社費用(2021年9月期Q3累計は△633百万円)を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

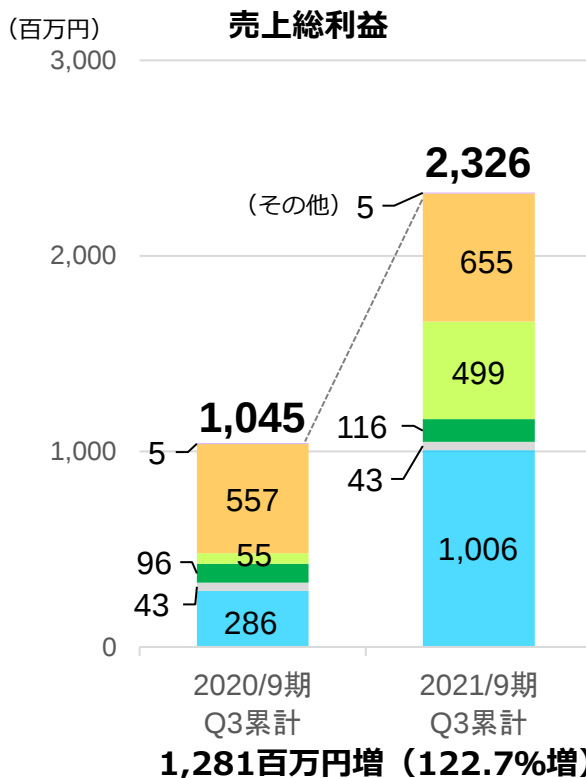
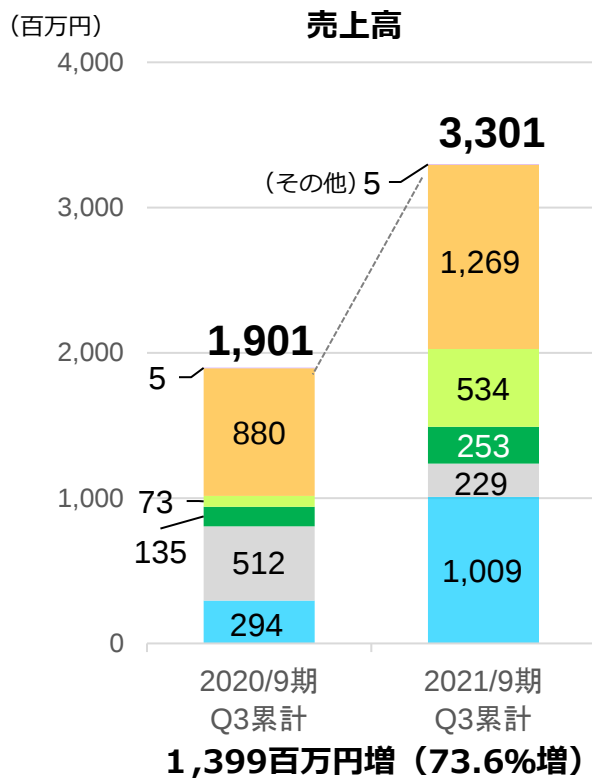
セグメント別業績 - 2



投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益

プライベートエクイティ投資（業務受託、企業投資）と、航空機AMが好調。

- ・ **業務受託** 複数の事業承継に関連するPE投資案件の業務受託により、増収。
- ・ **アセット投資** 前期に不動産開発案件でエグジットがあった反動で減収。不動産信託受益権販売が進む。
- ・ **メツァビレッジ** 前期の臨時休園による駐車場売上減や、テナント賃料の一部減免の影響がなくなる。
(前期Q2まではムーミン物語にマスターリース（売上原価なし）。前期Q3からテナントに直接賃貸し、運営コストを売上原価に計上。)
- ・ **企業投資** PE投資の回収により、増収。
- ・ **航空機AM** コロナ禍の影響で、金融機関や所有者（レッサー）から、機体検査や機体返還などの技術サービス提供依頼が増加したことにより、売上高、売上総利益とも増加。



- その他
- 航空機アセットマネジメント
- 企業投資
- アセット投資
- メツァビレッジ
- 業務受託（アレンジ、アセットマネジメント、不動産仲介等）

(注) セグメント間の内部売上高は、消去しない数値を使用。

エンタテインメント・サービス事業一業績等

メッツァは緊急事態宣言の発出により、来園者数は低水準に留まり、減収。

ライセンス関連は、ブランディングが「巣ごもり」需要取り込みに繋がり、増収。

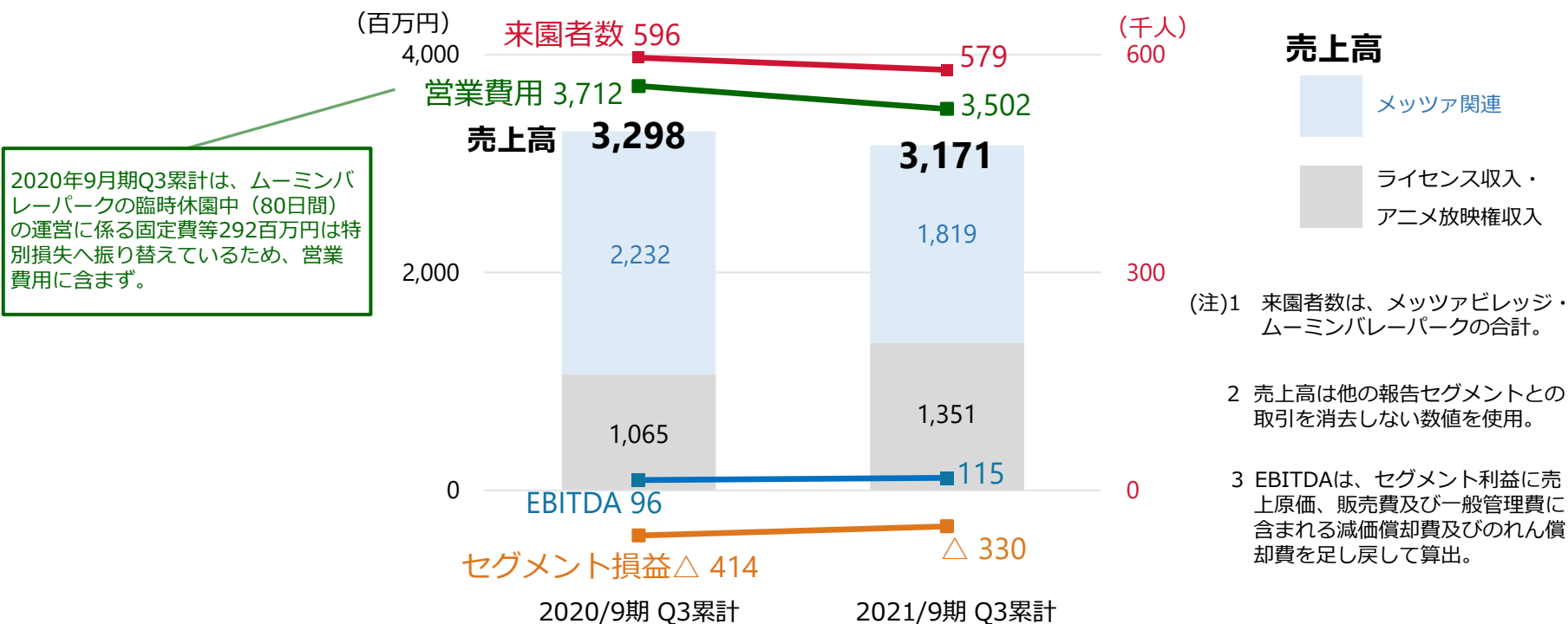
メッツァ関連 ・メッツァ来園者数は、Q1はイベント効果などによって回復したが、Q2、Q3は緊急事態宣言等により低水準で推移。費用を抑えた運営を継続。

・3/13～6/20まで、SPRING FESTIVALを開催。サウンドウォークを導入。環境演出を強化。

・東京駅発着のラッピングバスを運行し、アクセスを拡充。（4/17～8/29の指定日）

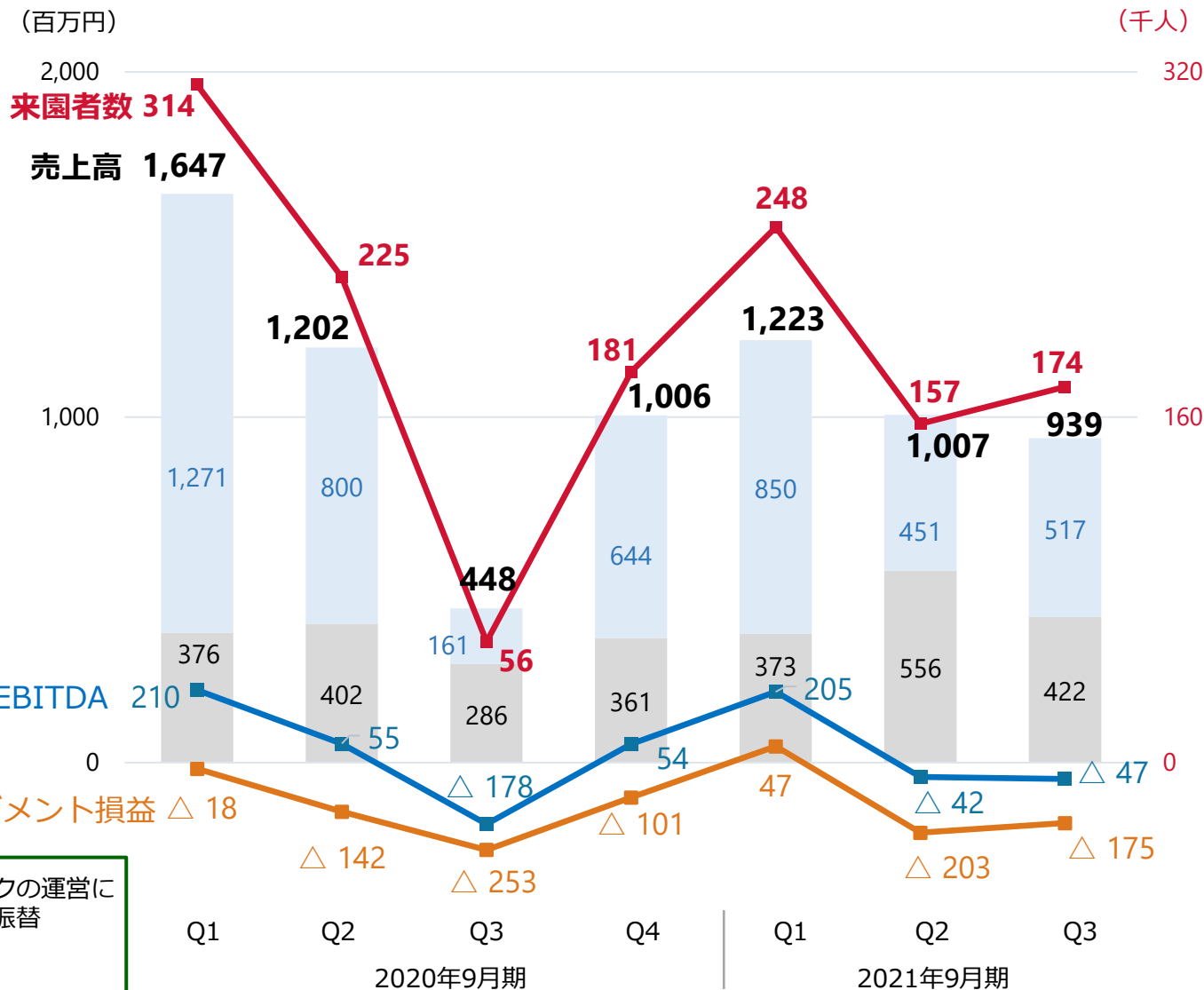
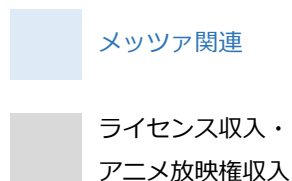
ライセンス関連 ・ライセンシーの総売上高は拡大基調が続く。

・ブランド価値向上のためのPR活動や、ライセンシーと協力した様々な企画を投入した結果、コロナ下を快適に過ごすための日用品やカジュアルウェアなどの「巣ごもり」需要の取り込みにつながり、ライセンス収入が増加。



エンタテインメント・サービス事業—業績等（四半期）

売上高



(注)1 来園者数は、メッツァビレッジ・ムーミンバレーパークの合計。

2 売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

3 EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

臨時休園中のムーミンバレーパークの運営に係る以下の固定費等は特別損失へ振替
 2020年9月期 Q2 71百万円
 Q3 220百万円

投融資残高の推移 (FGI,FGT合計)

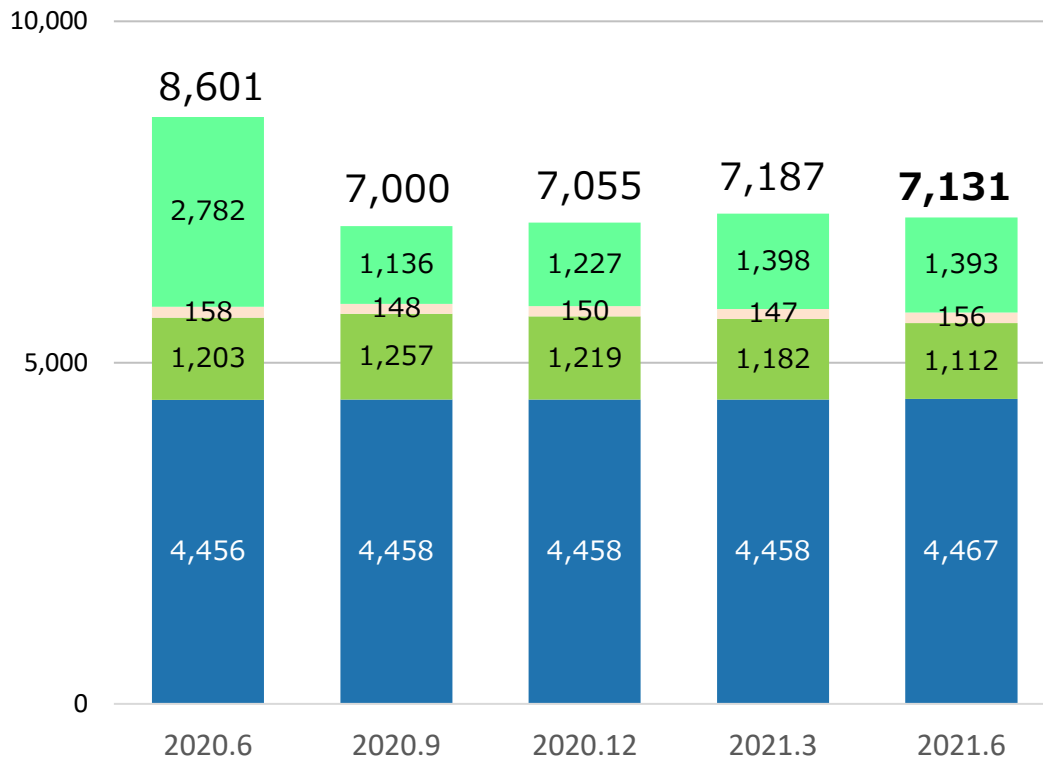
2021年9月期第3四半期 (2021/4~2021/6) の主な変動要因

■ プリンシパルインベストメント

- ・ 成長企業3社へ新規投資を実行。
- ・ 事業承継に係るPE投資案件について、一部分配を受ける（収益は第2四半期計上済）。

当社(FGI)、フィンテックグローバルトレーディング (FGT) の投融資合計額（子会社への出資を含む）

(百万円)



(注) FGI、FGT間の出資・貸付は、含めず。

■ プリンシパルインベストメント

ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金の合計額。

■ ベンチャーキャピタルファンド

FinTech GIMV Fund (FGF)、他2ファンドへの投資

■ 企業融資

営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。

■ 不動産等(メツア)

メツアにおける不動産。メツアビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

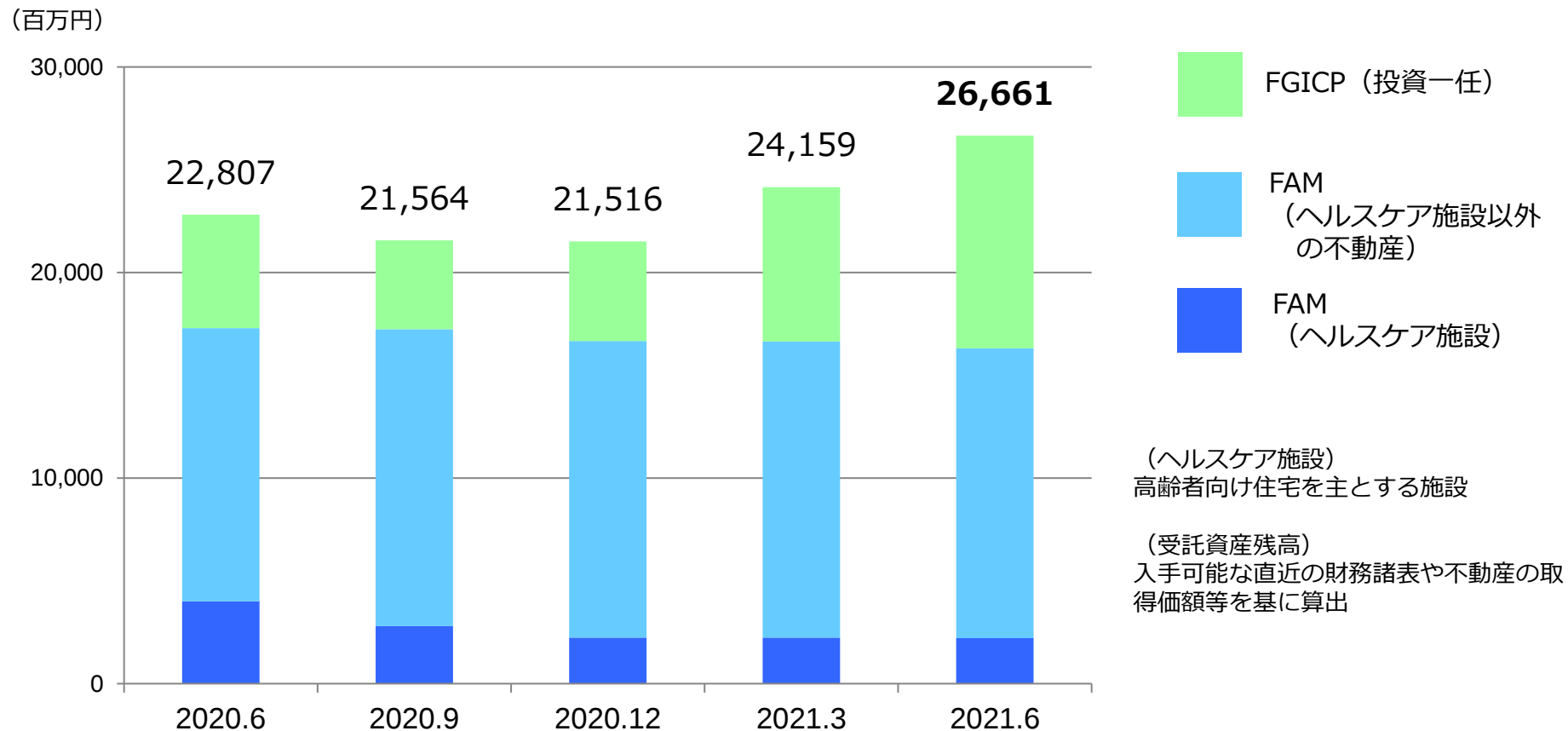
受託資産残高の推移

フィンテックアセットマネジメント (FAM)
FGIキャピタル・パートナーズ (FGICP)

2021年6月末の受託資産残高は、3月末比10.4%増の266億円となる。

2021年9月期 第3四半期 (2021/4~2021/6) の主な変動要因

- ・ FGICPにおいて再生可能エネルギー関連案件の運用開始に伴い、受託資産が増加。



連結貸借対照表

資産の部

	20年9月期	21年9月期 第3四半期	増減
流動資産	8,803,255	9,553,661	750,406
現金及び預金	2,162,069	2,771,965	609,896
1 受取手形・売掛金	564,724	669,931	105,206
2 営業投資有価証券	1,128,045	1,103,787	△ 24,258
営業貸付金	514,798	458,865	△ 55,933
販売用不動産	3,999,865	4,009,705	9,840
商品	257,591	213,885	△ 43,705
その他	272,878	416,040	143,162
貸倒引当金	△ 96,718	△ 90,519	6,198
固定資産	7,780,293	7,367,091	△ 413,202
3 有形固定資産	6,705,906	6,364,415	△ 341,490
無形固定資産	600,756	624,945	24,189
投資その他の資産	473,630	377,729	△ 95,900
資産合計	16,583,548	16,920,753	337,204

- 1 航空アセットマネジメント、ムーミンのライセンス関連などに係る売掛金が増加。
- 2 成長企業やPE投資を行うファンドへの新規投資を実行するも、子会社SPCの不動産信託受益権売却が進行し減少。
- 3 ムーミンバレーパークの建物、内外装等の減価償却により減少。
- 4 アセット投資案件に係る借入返済により、減少。

負債の部

(単位：千円)

	20年9月期	21年9月期 第3四半期	増減
流動負債	2,333,428	2,537,982	204,553
支払手形・買掛金	109,597	138,356	28,759
短期借入金	69,701	160,000	90,298
4 1年内返済予定の 長期借入金	615,111	358,644	△ 256,467
未払法人税等	97,250	147,748	50,498
リース債務	222,578	228,407	5,829
賞与引当金	130,666	127,093	△ 3,573
その他	1,088,523	1,377,731	289,207
固定負債	6,945,738	6,722,202	△ 223,535
長期借入金	6,125,744	6,089,110	△ 36,634
リース債務	581,872	409,830	△ 172,042
繰延税金負債	96,324	73,173	△ 23,150
退職給付に係る負債	108,259	115,992	7,733
その他	33,536	34,095	558
負債合計	9,279,166	9,260,184	△ 18,982

純資産の部

株主資本	6,294,416	6,547,192	252,775
資本金	6,462,062	6,462,099	36
資本剰余金	5,016,132	5,016,130	△ 2
利益剰余金	△ 5,183,778	△ 4,931,037	252,740
その他の包括利益累計額	△ 36,213	△ 7,359	28,853
新株予約権	64,045	79,016	14,970
非支配株主持分	982,133	1,041,720	59,586
純資産合計	7,304,381	7,660,568	356,186
負債純資産合計	16,583,548	16,920,753	337,204

連結損益計算書

(単位：千円)

	2020年9月期 第3四半期累計	売上比	2021年9月期 第3四半期累計	売上比	増減額	増減率		
売上高	1	5,196,677	100.0%	6,410,861	100.0%	1,214,183	23.4%	
売上原価	2	3,526,593	67.9%	3,564,453	55.6%	37,859	1.1%	
売上総利益		1,670,084	32.1%	2,846,408	44.4%	1,176,324	70.4%	
販売費及び一般管理費	3	2,563,881	49.3%	2,381,261	37.1%	△ 182,619	△ 7.1%	
営業利益又は営業損失（△）		△ 893,796	△ 17.2%	465,146	7.3%	1,358,943	－	
営業外収益		24,449	0.5%	4	68,395	1.1%	43,945	179.7%
営業外費用		119,886	2.3%	96,375	1.5%	△ 23,511	△ 19.6%	
経常利益又は経常損失（△）		△ 989,233	△ 19.0%	437,166	6.8%	1,426,400	－	
特別利益		5,672	0.1%	6,817	0.1%	1,145	20.2%	
特別損失		295,386	5.7%	1,122	0.0%	△ 294,264	△ 99.6%	
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失（△）		△ 1,278,947	△ 24.6%	442,862	6.9%	1,721,810	－	
法人税等合計		46,753	0.9%	191,549	3.0%	144,796	309.7%	
四半期純利益又は四半期純損失（△）		△ 1,325,701	△ 25.5%	251,312	3.9%	1,577,014	－	
非支配株主に帰属する四半期純損失（△）		△ 279,977	△ 5.4%	△ 68,522	△ 1.1%	211,454	－	
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失（△）		△ 1,045,723	△ 20.1%	319,835	5.0%	1,365,559	－	

1 投資銀行事業において、複数のPE投資案件が投資回収に至り、航空機AMも好調に推移して増収。

2 原価率が低い投資銀行事業の業務受託等による売上高が伸長したことにより、売上総利益は大幅に増加。

3 2020年9月期に漸次、各種コストの削減を進めたことにより、販管費は前年同期比7.1%減少。
メツツアは、コスト削減した運営体制を維持。

4 埼玉県飯能市より、メツツアに係る企業立地奨励金等52百万円の交付を受ける。

連結経営指標等の推移

		2016年 9月期	2017年 9月期	2018年 9月期	2019年 9月期	2020年 9月期	2021年9月期 第3四半期累計
売上高	(百万円)	7,485	7,182	3,689	9,175	6,841	6,410
売上総利益	(百万円)	1,496	1,626	2,261	2,944	2,313	2,846
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	△ 1,031	△ 1,319	△ 1,072	△ 1,664	△ 992	465
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	△ 1,369	△ 1,341	△ 1,227	△ 1,850	△ 1,135	437
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	△ 1,384	△ 1,358	△ 820	△ 1,586	△ 1,186	319
純資産	(百万円)	6,312	5,326	8,551	8,873	7,304	7,660
総資産	(百万円)	10,975	12,932	14,016	19,025	16,583	16,920
1株当たり純資産	(円)	38.66	29.64	39.31	37.03	31.12	32.52
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	(円)	△ 8.56	△ 8.39	△ 4.79	△ 8.08	△ 5.90	1.59
潜在株式調整後 1株当たり当期（四半期）純利益	(円)	-	-	-	-	-	1.59
自己資本比率	(%)	57.0	37.1	52.2	39.1	37.7	38.6
自己資本利益率	(%)	△ 19.7	△ 24.6	△ 13.5	△ 21.5	△ 17.3	-
株価収益率	(倍)	-	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 1,305	△ 1,153	△ 2,978	△ 2,604	680	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 302	△ 1,026	△ 2,008	△ 4,543	△ 282	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 751	2,937	5,771	5,710	△ 767	-
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	2,240	2,969	3,847	2,513	2,142	-
従業員数（連結） （外、平均臨時雇用者数）	（人）	114(20)	143(27)	156(47)	167(262)	156(224)	152(198)
従業員数（単体） （外、平均臨時雇用者数）	（人）	45(8)	40(6)	38(5)	39(5)	28(6)	29(4)

フィンテック グローバル株式会社 会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階		
設立	1994年12月7日		
代表	代表取締役社長 玉井 信光		
上場日	2005年6月8日		
証券コード	8789 (東京証券取引所市場第二部)		
事業年度	10月1日から9月30日まで		
事業内容	①投資銀行事業 ②公共コンサルティング事業 ③エンタテインメント・サービス事業		
発行済株式総数	201,115,600株 (2021年6月30日現在)		
単元株式数	100株		
資本金	6,462百万円	(2021年6月30日現在)	
連結純資産	7,660百万円	(2021年6月30日現在)	
大株主 (2021年3月31日現在)	玉井 信光 (株)CAT-MY	10,095,500株 (5.02%) 10,000,000株 (4.97%)	
連結従業員数	152名	(2021年6月30日現在、臨時従業員含まず)	

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2021年9月期第3四半期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。